

## 田ワキ(異常還元)の発生程度が高い圃場が見られます！ 積極的な水交換・田干しで、分けつの発生を促進しましょう！

### 1 生育診断圃の生育状況(6月10日現在)

地帯	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	残存アンモニア 態窒素 (mg/100g乾土)
平坦 はえぬき 5/10移植	本年	29.8	418	7.1	40.4	6.7
	前年	31.3	397	6.7	37.8	5.6
	平年	30.6	388	6.8	40.3	7.5
	平年比・差	97%	108%	+0.3	+0.3	-0.8
平坦 つや姫 5/8移植	本年	29.7	228	7.0	38.6	4.2
	前年	30.5	189	6.1	35.9	4.8
	平年	30.8	251	6.2	37.3	5.2
	平年比・差	96%	91%	+0.8	+0.8	-1.0
平坦 雪若丸 5/11移植	本年	22.4	232	6.4	36.6	5.3
	前年	31.4	336	7.5	41.4	7.3
	指標	26.0	280	6.8	41.0	7.3
	平年比・差	86%	83%	-0.4	-4.4	-2.0

生育診断圃の生育は、草丈はやや短く、茎数は「はえぬき」がやや多い、「つや姫」がやや少ない、「雪若丸」が少ない、葉齢は平年並～早い、葉色は平年並～やや淡くなっています。

全般に、生育は圃場ごとにバラつきが大きくなっています。生育状況に合わせた水管理を徹底してください。

### 2 田ワキを解消し分けつを促進！ ⇒ 目標茎数が確保できたら中干しを

- ・茎数の少ない圃場では、急ぎ茎数を確保しましょう。田ワキがみられる場合は速やかに水交換・夜間落水・田干しを行い、分けつの発生を促進しましょう。
- ・茎数を十分確保している圃場では、目標茎数に達したら6月20日を待たずに中干しに入りましょう(表2)。過剰分けつにより穂数が過剰になると、出穂後の天候の悪化による青米の増加や、玄米粗タンパク質含有率の増加、登熟後半の凋落等に繋がります。中干しは上根の伸長、地耐力の強化にも大切です。

表2 中干し開始の目安となる茎数(目標茎数の80~90%)

品種		はえぬき	ひとめぼれ	雪若丸	つや姫
m <sup>2</sup> 当たり(本/m <sup>2</sup> )		440~490	400~450	460~520	370~410
株当たり	60株/坪(18.2株/m <sup>2</sup> )	24~27	22~25	25~29	21~23
	70株/坪(21.2株/m <sup>2</sup> )	21~23	19~21	22~25	18~20

### つや姫・雪若丸コーナー

○茎数は田ワキの程度等により圃場ごとのバラつきが見られます。まずは田ワキ対策を行い分けつの発生を促進し、目標茎数に達したら中干しに入りましょう。

☆酒田・飽海地域「つや姫」「雪若丸」現地検討会を開催します。

6月17日(木) 14:00~ (酒田市前川に集合し、その後漆曽根に移動します)